

## 『(参加報告) 第22回欧州モビリティ・マネジメント会議』

【交通エコロジー・モビリティ財団 岡本 英晃】

5月3日から6月1日まで、スウェーデンのウプサラで開催された第12回欧州モビリティ・マネジメント会議 (ECOMM: European Conference on Mobility Management) に参加してきました。

欧州ではモビリティ・マネジメントを効率的にかつ効果的に進めるため、MMに取り組む国々でプラットフォーム (EPOMM: European Platform on Mobility Management) を作り技術や情報の提供や共有を行うと共にさまざまなツールを Web 上で提供しています。その EPOMM の主要な活動の一つが、年に1回開催される ECOMM です。ECOMM には欧州各国から実務者や専門家が参加し、取り組み方法や成果の情報交換が行われています。

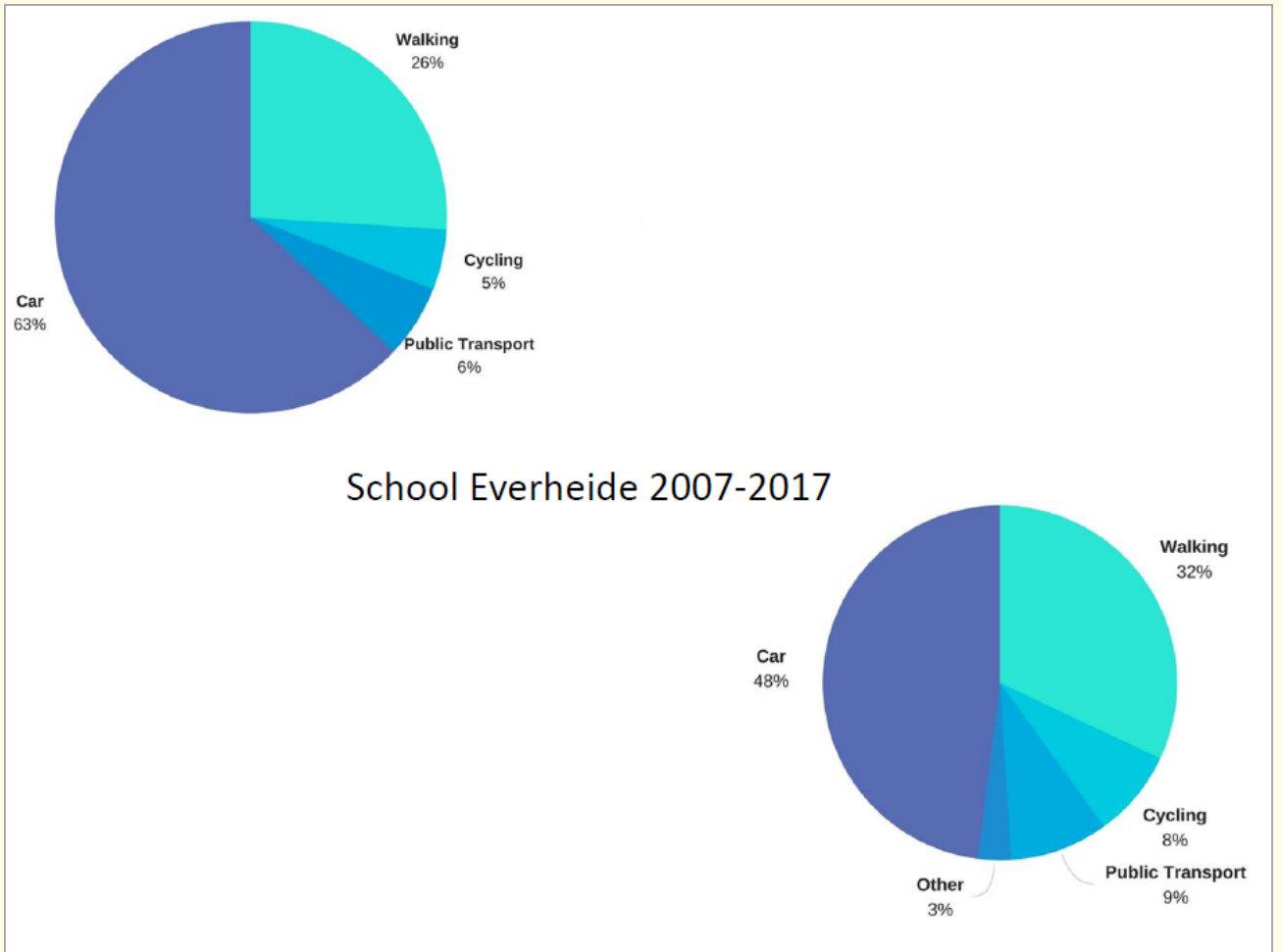
モビリティ・マネジメント教育に関する発表も3件あり、3件とも「通学路や地区内の安全を考える」という内容でした。児童と一緒に町中を歩き、危険な場所の確認をし、親の協力が得られたらヒアリングをしたりして安全マップを作成するそうです。また、自転車の安全教室を開いたり、日本の交通すごろくのようなゲームをしたり、公共交通の乗り方教室をしたりすることで、交通ルールや仕組みを学ぶということで、日本で行われていることとほとんど同じことがわかりました。

発表の中で、ベルギー・ブリュッセルの学校の事例として、効果が示されていましたが、2007年の児童の通学手段の63%が自動車送迎だったのが、10年間続けることで2017年には48%に減ったと紹介されていました。

日本ではこのベルギーのような自動車での送迎はほとんどなく、モビリティ・マネジメント教育の効果を把握するためには、通学手段では把握できません。しかしながら、長年続けていく中で、教材や教育プログラムが洗練され、効果的なものとなっていったと考えられます。

当財団では、モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及を目指している立場として、国内だけでなく欧州の取り組みにも学びつつ、我が国でのモビリティ・マネジメント教育の発展につながるよう活動していきます。





注：本稿内の画像や図は、Sofie De Laender, School Travel Plans in Brussels Region. ECOMM2018 発表資料からの抜粋